



ジュネーブ便り

第10回

インダストリアル本部造船・船舶解撤
ICT電機・電子部門担当部長

松崎 寛

スイスの観光産業

緻密な観光戦略と変化する外国人観光客への対応

この夏休み、家族と一緒にスイス・ベルナーオーバーラント地方を代表するユングフラウ、アイガー、メンヒなどの名峰や様々な高山植物を眺めながらのハイキングを楽しみました。美しい自然、きれいな空気、長

閑な農村風景、のんびりと歩く牛たち。どこを見渡しても、どの角度から写真を撮っても絵画のような風景が醸し出されています。スイス国内では道路や鉄道から外を眺めると、どこを通っても周辺の風景は美しくかつ良く整備されていて感心するばかりです。他方、主要観光地では最近目にするのが中国、インド、湾岸諸国など新興国からの観光客ばかりであり、欧米からの観光客をみかけることが少なくなりました。本稿では、観光客を魅了し続けるスイス観光産業の強さと変化していく外国人観光客への対応にスポットをあててみたいと思います。

スイス観光産業の強さとそれを支える農業政策

スイスの観光競争力は世界1位。

人口795万人を上回る年間約850万人がスイスを観光に訪れます。日本の九州ほどの国土しかないスイスがなぜこれほどまでに観光分野で強いのでしょうか。その1つが、観光によって農業を強くし、農業によって観光を強くする緻密な戦略があるといわれています。スイスの農家の大半は小規模家族経営で、約半数は標高の比較的高い草原や山岳地帯で酪農を営んでいるといわれています。このような規模的、地理的条件では生産コストが当然高くなり、農産物価格はフランス、スペイン、イタリアなど近隣諸国からの農産物にくらべ2倍近くになっています。また、GDPに占める農業の割合はわずか0.7~0.8%ですが、雇用者数の約10%が農業従事者と、雇用の観点からすると重要な産業です。

実はスイスの農業、農業所得の減少を直接支払い制度で補償しており、その財源は主に観光収入です。まず、政府が国土保全や美しい景観、環境にやさしい農業・酪農の手法・ルールを定め、それを実行した農家が直接支払い制度を受けることができます。農業本来の収入よりもこの補助金の収入割合のほうが大きい農家も多く、特に山岳部の酪農地帯では、農家の収入の6割近くが景観を保全するための補助金で賄われています。この農業政策のおかげで、EU域内の厳しい農産物価格競争に溺れることなく、高品質な農産物の生産に集中するとともに、農家を作り出し整備している「アルプスの少女ハイジ」的な風景を持続可能なかたちで維持し、観光客を魅了し続けているのです。

変化する外国人観光客の 出身国とその対応

冒頭で紹介したように家族でベルナーオーバーランドの旅を満喫してきませんが、驚いたことがありました。スイスで最も有名な観光名所のひとつであるスフィンクス展望台とヨーロッパ最高所にあるユングフラウヨッホ駅に行くための鉄道のチケットを購入しようと開店間もない始発駅の売り場に行ったときのことです。「すみません、チケットは完売しました。明日の分ならまだ残っています。」当日にいてもチケットは完売することが減多にないと聞いていたもので驚きました。事情を尋ねてみると、1日販売分5000枚のうち4000枚は中国人団体客用に事前に販売済み、のこりの大半はインド人と湾岸諸国からのアラブ人を買われたそうです。仕方なく翌日の電車に乗り込みましたが、電車のなかも、展望台も新興国からの観光客ばかり、ヨーロッパ一高いところにあるスイスを代表する高級宝飾店「シヨパール」、チョコレート店「リント」で爆買いする彼らの姿を目撃し、少々複雑な気分になってしまいました。

スイスは従来、ヨーロッパからの

観光客が客層の大半を占めていましたが、5年ほど前から観光客の状況が変化しています。ヨーロッパからの観光客数が減少し、逆に中国、インド、湾岸諸国からの観光客数が急増しており、文化・風習の違いから対応に苦慮しているようです。スイス情報を発信しているウエブサイト、swissinfo.chで次のような記事を見つけました。

「スイスには世界中から観光客が訪れるが、文化や行動様式の違いから問題が起こることも多い。(中略)言葉の壁や習慣の違いは、誤解やコミュニケーションの問題を引き起こし、ホテルのスタッフにとっても滞在客にとっても不愉快な経験になることがある。例えば、客室に備え付けの電気ポットで即席麺をゆでる中国人や、(バスタブ以外に排水溝がないため)トイレの習慣の違いから浴室を水浸しにしてしまうアラブ人宿泊客に対して不満を漏らすスイスのホテル経営者もいる。その問題を少しでも防ごうと、ベルナーオーバーラント地方のホテル経営者たちは、中国やアラブ諸国から来る観光客に対する理解を深めるためのワークショップを開いた。」ベルナーオーバーラントの観光拠点の町であるインターラー



6～8月の期間のみ咲く高山植物

ケンに滞在した中国人は2014年に12万8千人を記録し、2010年から僅か4年間で倍以上に増え、またアラブ人も9万人記録し同様のペースで増加しているそうです。スイスの観光産業は、文化圏の異なる地域から急増する観光客に対処するため、相当な努力と準備に勤めています。

観光立国にむけて 日本が学ぶべきこと

日本でも2020年の東京オリンピックにむけて外国人観光客は急増していくと予想されていくなかで、ス

イスから学ぶことも多いと思います。例えば、イスラム圏から来る観光客への対応。礼拝の場所を確保したり習慣を熟知することは重要です。また、外国人は日本独特の田舎の風景を好む傾向がありますが、各地で見受けられる耕作放棄地への抜本的な対策が必要ではないでしょうか。日本に似た地帯が多いスイスの農業政策を参考にしてみる価値はあると思います。「日本むかし話」的な風景を取り戻すことができれば、真の観光立国に近づけるのではないのでしょうか。



松崎 寛 まつざき かん

1998年金属労協に入局。国際局、政策局で主任として産業政策、環境政策の立案をはじめ海外労使紛争防止ツールの作成などに活躍。2010年9月1日から家族同伴でIMF本部(現インターストリオール)に赴任。現在の担当役職は、産業政策・多国籍企業政策グループの造船・船舶解撤/ICT電機・電子部門担当部長。